

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	住関連専門店（従業員）	・本格的な秋冬の到来により、高単価の秋冬商材が動くことが期待できる。9月から始まったプレミアム付商品券がまだ完売していないため、これからの高単価商品の提案のときにプレミアム付商品券が購買意欲を促進して、うまく機能してくれると考えている。
	○	商店街（代表者）	・長い夏が続いたため夏物衣料が売れてはいたが、秋物は特に必要に迫られていないため購入は少なかった。今から秋になるため涼しくなり需要が期待される。
	○	商店街（代表者）	・10月には大イベントがあるため催しが増え、経済効果が上がるとみられる。
	○	商店街（代表者）	・希望的観測であるが、秋に向けてイベントが増加するため、広報資材の需要が増えることが期待できる。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	・毎年の傾向で9月、10月になってくると、近郊の野菜や地元の商品が増えてくる。そのため、幾らか単価が落ち、また、気候も安定するため客の購買意欲の増加につながり、少しずつ売上が伸びていくと判断している。
	○	一般小売店〔精肉〕（店員）	・現状でも需要が旺盛であるが、需要に供給が追いつけば更に景気が良くなる。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから2～3か月は気候も良くなり、花を消費に使うイベントや発表会、開店祝い事などがあるため、9月より伸びると期待している。
	○	百貨店（営業担当）	・10月1日より商品価格が上昇するが、全店催事・クレジット催事、毎年恒例の物産催事・企業協賛催事では来客数が見込める。し好性の高いブランド品・化粧品やリビング用品も商品価格上昇で、絞り込みはあるものの自家需要が見込める。また、国内ツアー・クルーズ船寄港の増加で国内外からの人の流入が多くなっており、インバウンド需要や土産・工芸品・特産品需要が継続している。そのため、プレミアム付商品券やコード決済などの決済手段の多様化やクレジット決済利用での購買が一層期待できる。
	○	百貨店（リーダー）	・2～3か月後は冬の贈物や迎春準備等の需要があるため、来客数が増える。
	○	スーパー（総務担当）	・猛暑が落ち着き過ごしやすい秋冬の気候に移り変わると、生鮮を中心とした鍋物商材の売行きが良くなる傾向がある。物価高など消費マインドにマイナス要因はあるものの、株価上昇や企業業績の好調報道などのプラス要因が続けば、例年、年末年始に向けて消費者の財布のひもがやや緩くなる傾向があることを見込んでいる。
	○	コンビニ（経営者）	・実質賃金など議論はあるが、多少の値上げでも購入はあると見込んでいる。
	○	コンビニ（経営者）	・秋の新商品が大量推奨されることで、客の購入目的の来店が増加すると予測している。
	○	家電量販店（店員）	・米国市場の景気上昇に伴い日本への影響があると予想される。しかし、限定的であるため全体的に波及するかは疑問である。影響が一部の企業のみになれば景気の動向も怪しい。
	○	家電量販店（従業員）	・寒くなると暖房器具の需要が増えるが、今年はまだ暑さが残るため当分は現状のままと予想される。
	○	乗用車販売店（役員）	・メーカーからの配車増加に伴う売上台数・売上の向上や秋の大型イベントによる集客、受注増加が見込める。また、EV車の発売にも期待したい。
	○	乗用車販売店（役員）	・メーカーへのオーダーができない車種が多くなっているが、今後のオーダー再開に伴い来客数や注文数が期待できる。
○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・新規の客が増加している。これから気候が涼しくなり、コーヒー飲料系など冬場の需要が増えるため、年末にかけて安定的な売上が見込め、やや景気が良くなると判断している。	
○	高級レストラン（経営者）	・2～3か月先は飲食店にとって、繁忙期に入り動きが良くなる。大人数の予約が入ることに期待をしているが、全体的な動きは例年と比較すると不安である。	

<input type="radio"/>	一般レストラン（スタッフ）	・夏が暑すぎたので、これからの過ごしやすい時期に期待している。依然として経済対策は何も効果なく、米を含めて食料品から日用品、何もかも全てが物価高で苦しい。
<input type="radio"/>	観光型ホテル（営業）	・先行受注をみる限り、今より悪くはならない見込みである。
<input type="radio"/>	観光型ホテル（専務）	・これから先は、団体の予約が入り始めたため、良くなることが期待できる。
<input type="radio"/>	観光型ホテル（管理）	・年末年始に向けての動向はやや良くなる。
<input type="radio"/>	観光型ホテル（総務）	・例年どおり年末にかけての宴会需要過多で、国内旅行インバウンドと稼働単価共に上がりつつある状況である。
<input type="radio"/>	都市型ホテル（スタッフ）	・先の予約状況は現時点より着実に上がっている。物量や単価共に上向き傾向であり、やはりインバウンドの渡航次第で景気も変わってくる。
<input type="radio"/>	旅行代理店（統括者）	・海外旅行者やインバウンドのマーケットは順調な拡大を予測している。業績好調な企業のインセンティブ旅行やボーナス増加しているアッパーミドル層の個人旅行の拡大、また、補正予算による観光や経済対策の財政支出を予測している。
<input type="radio"/>	旅行代理店（統括者）	・秋の旅行需要は例年よりも多くの受注があり、上期で伸び悩んだ分が下期の需要で補えると見込んでいる。
<input type="radio"/>	タクシー（統括者）	・10月から更なる単価向上のための取組を実施し、採用についても対策を講じていくため景気は若干良くなる。
<input type="radio"/>	通信会社（社員）	・前年比では順調に推移しており、そのまま良くなるとみられる。
<input type="radio"/>	観光名所（職員）	・秋に向けて市内の各地域でイベントや祭りが続くため、流動人口が期待できる。
<input type="radio"/>	ゴルフ場（従業員）	・前年は韓国など国外からの来場者が多かったが、今年はそれを上回ると予想している。
<input type="radio"/>	美容室（経営者）	・2～3か月先の景気は、年末も近づき景気回復に期待ができる。おしゃれ産業としても季節や衣類の変化により、客の購買意欲も上がっている。これから、年末に向かいメーカーにも新製品が出てくる予定になっているため、景気は向上してくる。
<input type="radio"/>	理容室（経営者）	・9月は非常に暑すぎて来客数の回転が悪い。また、徐々に高齢化も進んできている影響が否めない。10月中旬頃から涼しくなってくるため、景気が良くなることが期待できる。
<input type="radio"/>	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・取引先の工場操業が2026年度まで埋まっており、人員増加の要求等もあり期待している。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・変わらず販売の苦戦が続くと予想され、危惧している。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・10月以降は様々な商品の値上げがあり、物価が一段と高くなっている。景気が良くなる分消費が復活するとは限らないため、今の悪い状態が続くと予想される。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・地方では3～4か月で所得が増加する見込みは少なく、買い控えが目立っている。買物の様子でも厳しい状況が見られる。飲食店では特に仕入価格が高くなっており、利益が出にくくなっている。
<input type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・この暑さは10月まで続くと予報されているため、当商店街の屋根がない現状では、売上の見通しが想像できない。
<input type="checkbox"/>	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・小売店での商品単価はここ数年値上げせずに頑張っているが、生活必需品の物価高騰の影響により、いつも購入している金額より更に低い商品の購入をする客が増加している。今後は収入増加になる要因があれば、客は少しぜいたくな生活ができると推察される。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・価格だけではなく、本当に欲しいものや汎用性の高さなど1点を吟味しての購入が多い。冬のクリアランスセール時期も苦戦が続くのではないかと考えている。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・次期首相や政権運営などの不透明な部分はあるが、株式市場などの商況から現時点で大きくマイナスになる見込みはない。この2か月は国内消費やインバウンド共に安定しているようであり見通しは堅調である。
<input type="checkbox"/>	百貨店（企画担当）	・来客数や売上などの商況は月ごとに好不調があり、不調の月の方が多くなっている。特に食品において価格高騰による買い控えが顕著になっている。

<input type="checkbox"/>	百貨店（経理担当）	・依然として消費マインドが弱く売上が伸びにくい状況である。インバウンド需要も落ち着きを見せているため、余り期待できない。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業企画担当）	・慎重な消費マインドは今後も変わらないと想定している。
<input type="checkbox"/>	百貨店（経営企画担当）	・先々のプラス要因もマイナス要因もないため、今月の傾向がしばらく継続する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・政権政党総裁の交代で何らかの物価高騰対策支援が出てくると想定されるが、現在の消費者物価指数の高止まりを到底カバーできるものではないと予測しており、景気は差ほど変わらないと判断している。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店員）	・客から、給料の昇給はなく、年金も上がることがないため、支出の節約しかないという声をよく耳にする。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・単価の上昇が予想されるが、売上減少の傾向は続くとみられる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・景気が上向く特段の要素は見当たらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・全体的に客単価の上昇が見受けられ、来客数は変わらない状況であり、来客数に変化はない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・物価高対策への期待もあるが、コンビニでの消費動向にはつながらないと見込んでいる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	・夏物が売れなくなる代わりに冬物のおでん、中華まんなどレジ周りのファーストフード商品、ホットドリンクなどが伸びてくると予想している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・身の回りの景気が回復する様子がなく、引き続き値上がりが続いており景気の先行きが不安である。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・業界自体が若干回復気味ではあるが、2～3か月先で売上が伸びる要素が見つからないため、横ばいが続くと予想している。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・続く値上げに対して対策の効果がなければ、消費活動は停滞した状態になると見込んでいる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（代表）	・変わるような要因が見当たらない。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・インバウンド売上のシェアを、中国が韓国を抜いたこともあり、中国人観光客の売上が韓国人観光客の売上減少を支える構図が予測でき、下降傾向にならないとみている。
<input type="checkbox"/>	旅行代理店（職員）	・例年11～12月の年末前は、旅行販売量が一旦落ち着く。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・イベントはいろいろあるが、例年と余り変わらない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・アプリ配車の影響により、若い乗務員が増加し、運転手の世代交代が進んでいる。不確定要素が多い世相ではあるが、今のところ一定の収入は維持できるとみられる。
<input type="checkbox"/>	通信会社（企画担当）	・見積依頼は多いが、次年度検討案件が多い。
<input type="checkbox"/>	通信会社（役員）	・当地域の住民の多くが自宅からの通勤者であり、その意味では生活基盤は安定している。しかし、生活物資の値上げは地方でも都市部と変わらず進んでおり、賃上げは余り望まず地域経済の好転は考えにくい。
<input type="checkbox"/>	テーマパーク職員	・直近6か月の来館者数は、おおむね前年比微増の傾向であるため、今後の景気はやや良い状態が続く。
<input type="checkbox"/>	競馬場（職員）	・外的要因で不安定な要素があるため、先行きを見通すのは難しい状況であるが、現時点では変化を判断する要素は見当たらない。
<input type="checkbox"/>	美容室（店長）	・演奏会や発表会など集まる機会はあるものの感染症が流行しており、外出をちゅうちょする人も多く、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	設計事務所（所長）	・今月の景気は若干良くなっており、仕事量としては3か月先につながるため、良くなる見込みである。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	・省エネ基準の引上げとZEHの定義見直しにより建物仕様も良くなることから、今後も単価は上昇すると考えられ、価格比較で他社競合も今以上に厳しい状況になる。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（代表）	・日本全体の所得が上がっていくことがない限り、現状は変わらない。住宅に対する消費税や補助金が改善されない限り、景気が上がっていく要素はないと考えている。
<input checked="" type="checkbox"/>	商店街（代表者）	・景気の悪化は気候の変動が一因ではあるが、やはり物価高による買い控えが1番の要因と推察される。現役世代は賃金上昇があるが、高齢者は収入が増えることはないため、購買もより慎重になっている。

	▲	商店街（代表者）	・ 諸物価高騰のため地方の小規模小売業の集まりである商店街は、厳しい状況にある。米を含む食料品の高騰により、嗜好品や書籍類は買い控えをするため、売上は上がらないと予想される。また、最低賃金が高くなっており、売上と賃金の支払で、各店のオーナーは頭が痛い状況だと推察され、力が弱い店は倒産する可能性があり、商店街の荒廃にも通じる危機感がある。
	▲	百貨店（総務担当）	・ 物価高騰で売上がやや悪くなる。
	▲	百貨店（業務担当）	・ 人の動きが活発になり、来客数が急に増加することは考えにくい。この景況感が続くことと予想される。米の価格上昇以降、全ての物が値上がりしていると考えている客も多く、必要な物以外は買わないなど慎重さが更に強くなっていく。
	▲	スーパー（店長）	・ 消費者の消費意欲が高くないことに加え、最低賃金上昇の動きにより、中小企業の収益に悪影響が大きいと推測される。消費者も企業も自己防衛意識が高まり、景況感は悪化する。
	▲	スーパー（企画担当）	・ 梅雨明けが早まったことと長引く猛暑により、夏物衣料が好調に推移したが、商品供給に限りがあり機会損失になっている。秋冬商材衣料の商品確保を最優先に行っているが、今後の気象状況が左右するところもあり、物価高による買い控えが大きく影響するとみられる。
	▲	コンビニ（経営者）	・ 更に物価が上昇していくため、景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・ 例年12月は閑散期に当たり、初売りも控えているため来客数が激減すると予測される。
	▲	住関連専門店（経営者）	・ 米国関税が高値安定で、国内の消費をけん引していたが、自動車を中心とする輸出が減少し、国内全体の景気に影響すると予想される。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・ 今の好調な推移が特需による恩恵であるため、今後は落ち着いた状況に戻ると予想している。一方で、当館にも新規テナントのオープンが幾つかあり、その状況次第では映画館特需による反動も極小に抑えることができると見込んでいる。
	▲	観光型ホテル（支配人）	・ 売上は各部門で前年並みを見込んでいるものの、更なる物価高騰、最低賃金引上げ等もあり費用が増加する見込みである。
	▲	通信会社（営業担当）	・ 収入が増えない限り、景気は悪くなる。
	▲	通信会社（企画担当）	・ 低迷している光回線の販売件数の改善が見込めない。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・ 冬場を迎え、来場者数の減少や客単価の低下が予想される。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・ 価格転嫁ができないため、今年度の賃上げ財源も困難となっている。他業界の給与水準増加が大きく、待遇面で大きな差が発生していることから、人材流出に伴う担い手不足が懸念される。
	▲	設計事務所（所長）	・ 世界経済の先行きが不透明で、国内経済への影響が予想できない。材料や製品の単価も高止まりで推移し、人件費を主とする職種の収入は上がってこないと予測している。
	▲	設計事務所（代表）	・ 物価高や金利上昇の影響により景気が若干下降することが予想される。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・ 経済や景気が良くなる可能性は、貿易黒字になることだと考えるが、関税で輸出入が厳しいため悪くなってくると予想している。
	×	スナック（経営者）	・ 今月は過去最低な売上を更新しそうな動きである。株価だけが過去最高を更新し、物価は毎月上がっている。大企業以外では給与の大幅な上昇はなく、完全に外食やレジャー費は節約モードに入っているとみられる。加えて、法人の団体利用も減少している。
企業 動向 関連 (九州)	◎	—	—
	○	化学工業（総務担当）	・ 前年比では損益は回復傾向にあり、同様の状況が続くと予想している。
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・ 新しい商品が決まっており、量的にも売上が伸びることが期待できる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・ 関税の問題が解決次第、それなりの客の対応があり、その後当社へ何らかの指示を受けることになる。過去の不明な点から徐々に数字がはっきり現れてきていることで、今後の先行きは上り調子になると客から伝わっている。

○	電気機械器具製造業（取締役）	・米国関税15%の確定により影響の度合いが図れるようになり、景気好転が期待できる。
○	輸送業（従業員）	・年末に向けて、物量の増加が見込める。
○	輸送業（総務担当）	・今後の日本政府の物価高対策に期待している。目立って大きな改革はないと考えるが、消費者心理が少しでも上があれば経済にとって良い方向に向かうと考えている。
○	金融業（経営者）	・仕事の引き合いがあり、調査もスタートしているため、3か月後には本格化してくる。
○	金融業（営業）	・物価高対策では、政治に期待している。
○	経営コンサルタント（社員）	・現在、営業を積極的に進めており、その効果が期待できる。
○	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数が増加傾向にある。
□	農林水産業（経営者）	・10月までは鳥インフルエンザの後遺症で若干影響が出そうであるが、12月以降は原料が安定し、工場稼働も順調に動きそうである。販売は11月、12月の行楽シーズンや年末に期待しても問題はないとみられる。やはり心配は鳥インフルエンザの発生で、既に韓国で発生しているため、我が国に影響があることは間違いなく危惧している。
□	家具製造業（従業員）	・案件情報や仕掛案件を含め、年内は変わらないと予想している。
□	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・買換え需要が少ないと考えられ、新版出版の予定が少ない。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・他分野への営業展開を図っているが現時点でその効果は出ていない。最低賃金の大幅な引上げに経営課題が多すぎる状態である。
□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・今後も予算計画以上の数量で推移するが、更なる生産量の上乗せはない。
□	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・徐々に先を見据えた話が各所から出ているが、時期は未定との回答が多い。
□	輸送業（従業員）	・10月以降、年末に向けて荷主も策を考えているが、関税や物価高による消費者の購買意欲の低下、消費財に対して財布のひもが固くなっていることから、なかなか景気が回復する条件がない。
□	通信業（職員）	・今年度の受注目標と比較すると、営業件名情報が不足している。上期までの営業活動及び情報収集で充たできていないため、受注量が伸びない可能性がある。
□	通信業（経理担当）	・販売に関しては引き続き好調をキープすると考えている。その一方で、物品やサービスの価格上昇が続いているため、状況を注視する必要がある。
□	金融業（調査担当）	・物価上昇の影響により先行きが不透明であり、現状程度が見込まれる。
□	金融業（調査担当）	・長引く物価高による家計のひっ迫感が払拭されるような好材料が見当たらず、景気は現状程度で推移するものと見込んでいる。
□	不動産業（経営者）	・今後の仕事の状況も、余り変動がない。
□	新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらないため、景気に変化がない。
▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・顧客からの情報より予測している。
▲	金融業（営業担当）	・総裁選挙の結果によるが、連立政権と政策決定と実施までに時間を要するため、景気は更に悪くなるとみられる。
▲	広告代理店（従業員）	・今後も、新聞の発行部数の減少に歯止めがかからず、新聞折込広告の業況としてもプラスに転じる要素が見当たらない。また、国内外の不安定な状態は続き、景気は3か月後も現時点と同様にやや悪くなると予想している。
▲	経営コンサルタント（社員）	・原材料価格の高騰により値上げするメーカーが増加し、消費者のし好の多様化でアルコール離れが増えているため、先行きは若干悪くなる。
▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村の委託業務の発注は10～11月で終了するため、今後は発注のペースがこのまま少ない場合は受注する可能性が低くなる。受注する場合は低価格で入札するため、利益の確保が難しくなり、景気はやや悪くなるとみられる。
×	繊維工業（営業担当）	・同業者アイテムは違うが、工場閉鎖が続くとみており、国内の縫製工場の存続に不安感を持っている。

	×	電気機械器具製造業（経営者）	・今後年末に向けて主要取引先からの受注は減少する見込みである。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	—	—
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者の動きは活発化しているが、求人数が1割程度減少している。最低賃金引上げを踏まえ、募集を控えている企業や社内調整の限界で募集を掛ける企業が見込まれる。
	□	人材派遣会社（社員）	・派遣部分に関して芳しくない状況が続くと予想され、人材紹介案件や業務委託などの業務も展開しながらの動きになるため、結果的に変わらない状況を予想している。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・穏やかな気候になり、イベントなど行楽に伴い景気上昇につながる事が期待できる。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・インバウンドの力強さはそのまま継続すると予想されるが、10月以降も物価の上昇が見込まれ、企業においては最低賃金引上げへの対応などが控えていることもあり、全体の景気としては現状と余り変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・最低賃金の引上げの動向を踏まえた募集控えは、小規模事業所で可能性はあるものの、人手不足感は相変わらず強く、大幅に募集人数を減らす動きは全体としては今のところみられない。
	□	職業安定所（職員）	・今月の新規求人数は前年比で減少しているが、求人件数は微増であるため、企業の人手不足の状況に大きな変更はないとみられる。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・米国政権が打ち出す、米国への輸入品に対する関税措置や自国優先主義など様々な政策が、国際経済の不確実性を高め、日本政府や企業も具体的な対応策を模索している状況が続いており、先行きの不透明感が非常に強い。また、追加関税などの報道により、為替相場や株価も影響を受け、物価高騰は収まる気配がなく、実質賃金が大幅に改善する見通しも立たず、景気が上向く実感がない。
	▲	人材派遣会社（社員）	・最低賃金の引上げが企業の人件費負担を増加させるため、採用抑制や求人件数の減少につながる可能性が高くなる。
	▲	人材派遣会社（社員）	・求人や求職数が現在も横ばいとなっており、最低賃金の引上げに伴う利益圧迫が見込まれる。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・10月以降も物価が上昇傾向にある。賃金が確実に上昇しなければこの物価高に追い付けない。この秋はサンマが安く、珍しくスーパーで品切れ状態になることも見受けられる。物価か賃金が落ち着かなければ景気が良くなるとは実感しづらい。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・物価上昇が続いており、消費者の節約志向が更に強くなるため、身の回りの経済活動全体がやや鈍化する可能性がある。
		×	—